

2016年 マルメ大学研修に参加して

ダイセイ歯科クリニック 山田 和美

私にとって初めての海外研修で約1年前募集があった際、家族の病気などあり参加するか迷いました。しかし以前からワールドスタンダードな歯科治療とはどんなものか？私が歯科治療に携わる意味は何か？を探するために参加を決めました。また、スウェーデンにおける歯科医療にも興味があり自身の目で直接体験することにより真の歯科医療哲学を理解したいという思いも理由のひとつです。

マルメ到着後すぐに熊谷先生からの手紙が読まれ、歯科医療システムの構築は形からではなく、歯科医療哲学を学ぶことであると伝えられ、私のマルメ大学研修が始まりました。今回の研修目標は患者の真の利益を捉える＝歯の健康増進でした。

スウェーデンの歯科医師、歯科衛生士、技工士の教育プログラムの説明、PBL、カリエスリスクアセスメント、スケーリングテクニック、歯科医院視察訪問、歯周組織再生など多岐にわたる内容で、今、私の頭の中を早く整理して医院スタッフ、患者さんに伝えたい気持ちでいっぱいです。

特にスウェーデンにおける歯科医療はキャビテーションシステムを取り入れナショナルガイドラインに沿ったリスクアセスメントプログラムR2を用いてリスク評価を行うことで患者とスタッフが共に予防の大切さを理解していることに感銘を受けました。また、疾患に対する態度に変化が起きた事、そのデータを蓄積して分析をすることにより様々な角度から新たな問題点を国レベルで検討し改善を行っていることを学びました。現在の日本の出来高払いによるシステムでは歯科医が患者の真の利益を捉えられず、歯を削って詰めるという選択を助長しているのではないかと感じました。日本でもナショナルガイドラインに沿うリスクアセスメントプログラムがあれば全国統一のエビデンスに則った予防治療が受けられ、もし患者が転院しても以前の履歴が一目で分かるといったようなことは見習いたい部分だと思いました。

マルメ研修では様々な方との出会いがありました。デンマーク行きの電車が急に発車しなくなるアクシデントの時は声を掛けてくださった先生方、共に受講された衛生士の方々の心温かい態度に感銘し、私もこのような方々と志を共に健康に目を向けた歯科医療に取り組む決意を新たに出来たと思います。

このような機会を与えてくださったみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。